

定例市長記者会見録

日 時：9月25日(金) 午後1時30分～2時

場 所：本庁舎6階特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長

報道機関 中日新聞、読売新聞、朝日新聞、NHK

(市長)

本日の案件は5つです。

1番目は、「いちのみや市100周年 市民チャレンジ事業を募集」です。来年は市制施行100周年です。中核市となり、保健所も移管されますので、テーマを「健康・元気」として、さまざまなプロジェクトに取り組んでいきます。市民の皆様にもぜひ盛り上げていただき、そのチャレンジに対して支援を行うものです。補助率は5分の4で上限は50万円、募集期間は10月1日から来年2月26日まで、「市民チャレンジ事業」を募集します。NPO法人が熱心なのではと考えていますが、それに限定せず、例えば100周年での記念大会を開催するスポーツ団体、芸術家団体、法人格のない任意団体でも、このために集まるのであれば利用可能です。審査基準は、①「いちのみや市100周年」記念事業基本方針に沿ったものであること、②新規性、③広く市民が交流できるものであることで、一部の人に偏ったもの場合は優先順位が低くなります。また、コロナ禍での説明会の実施を控えるため、説明動画を市公式ウェブサイト上に掲載します。対象となる市民チャレンジ事業につきましては、リアルなものに限らず、コロナ禍にも影響されないオンラインで行うイベントも対象とします。

2番目は、「市民が選ぶ市民活動支援制度」に代わる新たな制度を開始」です。令和3年度から「一宮市市民活動サポート補助金」制度を開始するために、9月定例会に上程しました。平成21年度に開始した「市民が選ぶ市民活動支援制度」は、市民が一人当たりの支援金額600円程度につき、投票で補助金の支給先を決定するという先駆的な取り組みでありました。しかし、投票率は例年10%程度でした。支援金額が千数百万円程度であるのに対し、投票に係る経費が1千万円程度で、民主主義のコストとして仕方がないですが、他にも支援を受ける団体の固定化、長期化という課題もありましたので、投票による支援制度を終了します。新補助金では3段階を設定し、第1段階は、団体のスタートアップを支援する「スタート支援部門」と、団体が20代、30代の若者中心なら補助率を上げて支援する「若者支援部門」を設け、初期の支援を行います。第2段階は、拡充期の「ステップアップ部門」で、これまでの投票制度で支援を受けていた団体は、この部門が対象となると想定されます。補助率を徐々に下げる仕組みにしたのは、本来なら市民活動は行政が関わらなくても市民の皆さんにより運営していただくべきものであり、その揺らん期を支えるために行います。最後は成熟期の「助成金チャレンジ部門」ですが、民間公募の助成金を取得した際は、市でも支援を行います。また、制度の変更で不安を感じる方もいらっしゃると思いますので、これ

まで市民活動支援制度を活用していた団体が該当するステップアップ部門の説明会を、来月に開催します。

3番目は、「医療費後払いクレジットサービスを開始」です。一宮市立市民病院で診察後、会計を待たずに済ませられるよう、事前にクレジットカード情報等を登録すれば、会計時は書類の提出だけで帰宅できるサービスを開始します。会計待ち時間の短縮に加え、院内の3密対策や駐車場の混雑緩和の面でもメリットがありますので、今回、東海3県で初めて、このシステムを導入します。類似の取り組みで手数料を徴収する団体もありますが、一宮市では手数料なしで行います。

1日に100人程度の利用を見込んでいます。

4番目は、「競輪場跡地への出店計画の一部変更について」です。株式会社LIXILビバから、提出されたプロポーザル時の事業提案につき一部変更の申し出がありましたので、市で審査し承諾します。変更の概要は、建築面積を約2万8,000平方メートルから約3,000平方メートル減らし、建物構造も、鉄骨造4階建を3階建とします。売り場面積も1割程度、駐車場収容台数も減ることになります。変更の理由は2点あります。1つ目は、渋滞について現状から悪化させないよう、車両の周遊距離の確保について見直しを依頼していました。2つ目は、コロナ禍による飲食業やスポーツ業等のテナントの業態への影響は無視できないので、売り場面積を1割程度減らしたいという申し出がありました。市が受け取る金額には変更はなく、また変更後の計画でもプロポーザル実施時での他社への優位性も変わりませんので、売り場面積の縮小はやむを得ないということで、市も了解しました。株式会社LIXILビバは、アークランドサカモト株式会社からのTOBにより、資本が移りますが、アークランドサカモト株式会社は、この計画を予定通り実施すると株式会社LIXILビバを通して報告を受けています。

5番目は『「企業版ふるさと納税」を募集します!』です。個人が行うふるさと納税と違い、返戻品はありませんが、一宮市外に本社がある企業が、寄附の対象となる市の56事業に対し、1回当たり10万円以上寄付していただきますと、法人関係税から税額控除を受けることができ、最大で寄附額の約9割が軽減されるメリットがあります。県内では既に取り組んでいる自治体もありますが、西尾張9市では一宮市が初めてで、本日から開始いたします。

以上、本日の説明でございます。

質疑応答の概要

■競輪場跡地への出店計画の一部変更について

(記者) 変更の理由で、交通渋滞への対応というのは市側の要望ですか？

(市長) 私どももですが、一番は周辺住民の皆さんからです。跡地開発をビバ側が行うことが決定しました。その後、ビバ側から周辺住民に対して説明会を行っていただきます。

した。その説明会で、住民からそういった要望が出ていました。それに加え、地元からの要望ということで、市からも重ねてお願いしていました。

(記者) それを踏まえて、変更の提案があったということですね。これは、親会社のアークランドサカモトが、予定通り行うと言ったのでしょうか？

(担当) ㈱LIXIL ビバから、親会社が変わっても計画を引き継ぐと回答を得ています。

(記者) 当初の計画ですと、2021年の9月に開店となっていますが、これはどうなるのでしょうか？

(市長) 令和3年度中の開店で行きたいと聞いています。できれば一宮市100周年の令和3年度9月1日に合わせたかったのですが、解体の前段階で土壌汚染があったため、予定が遅れています。そのため、令和4年2月に開店を目指す予定で報告を聞いています。

(記者) 現在ある精文館、ツタヤ、ゲームゾーンなどは全て閉店することになると思いますが、その部分も拡張計画の一環なのですか？

(市長) そうです。一体で開発するということです。

(記者) あそこには新しい店舗ができるのですか。それとも駐車場にするのですか？

(担当) 現在の計画ですと、店舗がある敷地は駐車場になります。

(記者) 4階建から3階建への変更となっていますが、当初の計画から鉄骨造3階建でだったのではないのでしょうか？

(担当) 以前の計画では、4階部分は駐車場だけの建物を建設する計画でした。しかし、今回の計画変更で、建物がコンパクトになり平地の駐車場が増えたので、4階部分の駐車場が必要なくなったということです。なお、店舗が入居するのは、3階までで以前と変更はありません。

(記者) 当初の予定だと、入居する店舗は50～60でしたが、どのくらいになりますか？

(担当) 提出された図面上の店舗数は40ですが、店舗のごとの区割りによって変動があります。

(記者) 出店予定の店舗数が減ったのは、コロナ禍で業績悪化した出店予定者が、出店を見合わせたことが原因ですか？

(市長) 本体のホームセンターはコロナ禍でも業績は上がっています。それ以外の、飲食業やスポーツクラブが入居予定でしたが、そういった業種の業績が現在大変だからと聞いています。

(記者) 1階がホームセンターで、2階に一般テナントが入居するのですか？

(担当) 1階にはホームセンターとスーパーマーケットが入店予定で、2階には専門店が入店予定です。

(記者) ビバホームという名称は変更するのですか？

(市長) LIXIL ビバのLIXILは無くなります。ビバホーム、ビバモールという名称は変更しないというのが、アークランドサカモトの方針だと聞いています。

■医療費後払いクレジットサービスを開始

(記者) 病院でのクレジット払いについて、県内の公立病院ではどのような状況ですか？

(担当) クレジット払いは、一般的に対応しています。

(記者) 医療費後払いサービスを行っている会社はあるのですか？

(市長) そうです。

(担当) 紙幣計数機などを扱っている、姫路市に本社があるグローリーという会社です。この会社のシステムを使って、今回のサービスが出来るようになります。

(市長) この会社のシステムが、大阪大学附属病院や東京医科歯科大学附属病院など、全国の名だたる病院が導入しています。そこで、市民病院でもこのシステムを導入してみようということです。

(記者) 1日100人程度の利用を見込んでいるのですか？

(市長) 市民病院の患者数が1日で約1200人なので、そのうちの2割がクレジット払いを利用してみえます。そこから計算して、事前登録が必要なので100名程度は利用していただけると見込んでいます。事前登録は必要ですが、その場で簡単に手続きできます。

■スケート場について

(記者) 本日の経済教育委員会の請願で提出された、一宮のスケート場の製氷機に使用している冷媒材のフロンがなくなり、再来年には氷が作れないのではないかということでした。廃止、存続、新しい製氷機の購入の選択肢しかないと思いますが、市はどうお考えですか？

(市長) 現在、検討中です。現在の製氷機が長く使えれば良いのですが、併せて建物の老朽化しています。来年、中央看護専門学校がおそらく最後の卒業生を出しますので、建物全体として考えて行く事になると思います。